

JICAシニア海外ボランティア「景観保存」

タイ国 第2の都市チェンマイへの赴任、2年間の記録 第6回 チェンマイ都市景観ガイドプランの提案

活動内容

3. チェンマイ景観ガイドプランの策定に向けた提案

現在チェンマイは都市の膨張が加速的に増し、多くの自然環境や景観破壊が進みつつある。チェンマイは奈良と同じく生き続ける歴史都市であり、ランナー文化を背景に地域制豊かな風景・景観とチェンマイらしさを感じ取れるまちづくりが必要としている。現在更新中の第3次都市総合計画に加え、景観と言う視点に立った上で歴史文化観光都市チェンマイのあり方を考え、保全と創造を行うことが不可欠な時代になって来たと言える。これら背景を考慮して奈良の景観によるまちづくり事例の紹介と、広域的な地域景観の方向性を示す指針としての「チェンマイ都市景観ガイドプラン」の策定に向けた提案活動とした。

(1)日本の事例紹介（タイ語翻訳資料の作成と配布）

- ①奈良県都市景観形成ガイドプラン（抄）
- ②奈良市景観形成基本計画 ③古都保存法概要
- ④奈良県風致条例概要 ⑤景観法パンフレット
- ⑥景観法 英語翻訳（国土交通省翻訳全文）
- ⑦橿原市景観計画・景観条例のあらまし
- ⑧京都市景観計画4章 眺望景観の創生に関する計画
- ⑨京都市「新景観政策」パンフレット、眺望景観や借景
- ⑩古都奈良とチェンマイの地域交流フォーラム報告書

(2)県の景観特性と課題の明確化

●**チェンマイの景観特性の把握**：チェンマイ県総合計画区域周辺の山並みを背景に南北にピン川が流れる①自然的環境を基本とし、古くはランナー王国の首都として建設され、城壁が残る古都地区を中心として寺院が数多く点在する②歴史的景観を形成している。近年においては都市化の影響により、放射状に開発が進み近代的な様相の③都市的景観を創り出しており、これら景観要素に加え日々の生活や地域文化により「人」のイメージの中で醸成される④心象的景観も重ね合わせ、これら4つの景観要素に着目しチェンマイの景観特性を捉えた提案内容とした。

●**景観形成の課題**：チェンマイの景観形成の課題は、豊かな自然とチェンマイ固有の歴史風土を感じ、多くの資源を守り生かしながら未来に向け魅力的なチェンマイ築き上げることにある。しかし、都市化の波は拡大と成熟化が進行しこれら思いとは関係なく多様な都市景観が形成されつつあり、今後より良いチェンマイの景観形成を推進するためには、長期的視点に立ち明確な方向性を持った景観ビジョンが求められている。

(3)都市景観の基本方向と具体的方策の提案

●**チェンマイの景観形成の基本方向**
景観づくりの目標

チェンマイ（都市総合計画区域）は将来においても、生きつづける歴史都市であり、自然や歴史景観の保全と共に新しい都市景観の創造によるチェンマイらしい文化の香る、美しいハーモニーを奏でる街を目指した景観づくりとする。

●景観形成の具体化方策（指針と方策）

①自然的景観の具体化方策

1. 山麓のバッファゾーンへの配慮
 - ・風致地域の創設 ・山裾景観形成モデル事業
2. 多自然型河川景観と多自然河川景観
 - ・水辺景観整備計画の策定
 - ・川づくりの課題対策と景観対策のシステム
 - ・チェンマイらしいランドマーク景観の整備
3. 農村文化の保護と新興住宅地の抑制

②歴史的景観の具体化方策

1. 伝統的木造建築物等の保全と活用
 - ・事業施策の活用 ・法や制度の整備
 - ・補助制度の確立 ・技術者ネットワークの確立
2. 古都チェンマイの景観保全条例の制定
3. チェンマイ歴史景観ガイドラインの策定

③都市景観の具体的方策

1. 公共事業による景観形成
 - ・チェンマイ公共事業マニュアルの策定
 - ・公共事業によるコミュニティの育成
2. チェンマイ緑の景観計画の策定
3. チェンマイ都市景観ガイドラインの策定

④心象的景観の具体的方策

1. チェンマイらしい景観形成に向けた共同認識の醸成
 - ・景観情報の共有 ・景観協議会の設置
 - ・チェンマイ眺望景観形成地区の指定
 - ・まちづくり活動拠点の整備
4. 都市計画、土地区画整理事業への景観保存の立場からのアドバイス

(1)都市計画研修等への支援

- ①日本の街なみ環境整備事業の手法説明
- ②都市総合計画公聴会にて高さ規制の考え方説明
- ③土地区画整理事業説明にて景観整備の協力
- ④北タイ都市計画担当者会議で翻訳資料の配布
- ⑤タイ関係者の奈良訪問に伴う調整（NMC協力）
 - ・アディサック・ノースワン（CP）他（2名）
 - ・テサプリー・ラチャパット大学教員（12名）
 - ・スコタイ県 副知事、DPT部長他（27名）
 - ・NHAタイ国家住宅公社、自治体関係者（60名）
 - ・内務副大臣、内務副事務次官、DPT関係（12名）

(2)地区別まちづくり構想への支援



執筆者

上嶋晴久 (うえしま はるひさ)
1957年 大和高田市本郷町(天神橋筋)生まれ
1979年 近畿大学理工学部建築学科卒業(成瀬研)
HULL (ハル)建築設計 主宰
社団法人奈良まちづくりセンター副理事長
株式会社 国際開発アソシエイツ(P/E)
奈良まほろば大使

- ①ターペー通り～ワットケート周辺地区計画案
(テサバン・ナコン・チェンマイ地区別景観会議)
- ②ワロロット周辺景観整備についての相談に対応
- (3)地域別の景観計画(プロジェクト計画)への支援
 - ①ワット・サドゥムアंक遺跡保存計画
 - ②ワット・スワンドック前公園計画
 - ③チェンマイ県庁、親水公園等施設整備計画
 - ④地域まちづくり活動拠点の提案「民家利活用提案」



タイ語の先生達による手料理

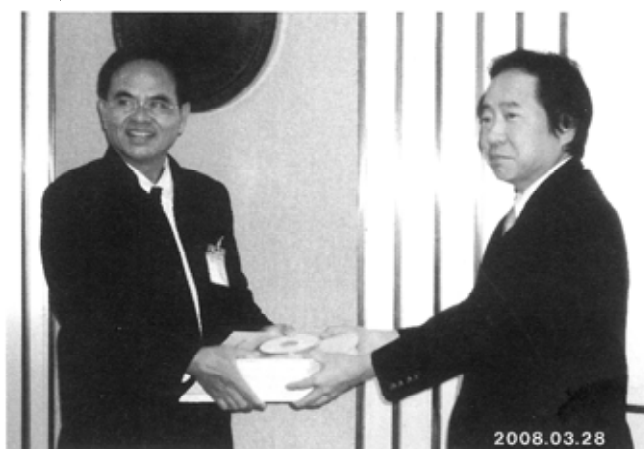
任国の人々との交流

赴任当初から配属先の人々との会話は常に通訳を介して行われており、業務における意思疎通は的確に行うことができた。しかし、グループ派遣である私たちのケースは恵まれており、ほとんどのJICAボランティアは全ての事を一人でやらねばならないのが普通である。したがって、その反面において赴任先の人々との私的交流やタイ語をマスターするスピードに若干の遅れがあったように思われる。

私のカウンターパートであるテラユット氏と二人でのコミュニケーションは辛うじて意思疎通できる程度の英語により行っていたが、経歴や建築に対する考え方を話している時、建築家の職能意識が共通していることに気づき、互いの垣根は無くなった。その他、都市計画のCPであるアディサック氏やスラボン氏、ティアムラット氏、ピチエート氏をはじめ配属先のチェンマイ土木・都市計画事務所のスタッフの人々とも赴任6か月過ぎた頃には違和感なくコミュニケーションができるようになった。翻訳・通訳を戴いたアイラダー氏や出張先においても多くのタイ人との交流ができた。JICA現地研究においてはチェンマイ大学のナウィット氏と学生達、地元の建築家、商工会議所との交流もあった。以前から(社)奈良まちづくりセンターとの交流のあるチェンマイ都市開発財団のドアンチャン氏やメンバーの方々、そして、ワットケート地区の住民組織の

オラビモン氏とも交流を深めることができた。私生活では、私の借りていたコンドミニアムのオーナーである日系カナダ人のゴードン氏やタイ語の先生であるティータリー氏とメイラダ氏には多くの事を教えて戴いた。

私自身、海外赴任は初めての経験であり、現地になじめるか心配していたが、どうも日本人とタイ人は良く似ている所があるようで、言葉の障壁が少しあったがその心配は、早い段階で払拭された。多くのタイ人は直ぐに友達になれる所があり、親しみやすい人々のように思える。



内務省土木都市計画局長へ景観保存の成果報告

海外ボランティアの経験について

今回、都市計画、土地区画整理、景観保存、通訳のグループ派遣による相互の補間により、多くの仕事をすることができた。日本での活動に比べ、言語がままならない状態で赴任してもタイの地域社会での聞き取りすらできないのが実情と言える。また、地域の歴史や文化をはじめ過去の資料や将来の計画、現在進行しているプロジェクト等の把握なしには、都市計画の内部まで入り込むことができない。赴任先はチェンマイ土木・都市計画事務所という中央政府の地方出先機関と言う利点を活かし、土木・都市計画局への情報発信が出来たことにより、地方事務所での活動がタイ全国レベルの景観についての認識や変革の可能性を含め活動できたことは非常に意味のあることと考える。

日本人としてタイ国で社会貢献ができたことは、タイ人に小さな遺伝子を残せたような実感とともに、この2年間の経験は自分自身のレベルアップにも繋がったと確信する。

参考文献

- チェンマイ都市景観ガイドプラン(提案)
- JICAシニア海外ボランティア景観保存 報告書 土会奈良への投稿の機会を戴きありがとうございました。詳細報告は下記ホームページを参照ください。
http://www1.kcn.ne.jp/~hull/profile/jica/jica_top.htm